

ジイジ・バアバ、
パパ・ママへ贈る

アヤと過ごすジイジの日記

心のめばえ

<1>

著者／牟田 泰三
挿絵／橋本 礼子

2歳10カ月

ジイジ疲れたの？

近所に息子一家が住んでいて、そこに孫娘がいる。彩夏という名前なのでアヤと呼んでいる。最近、アヤが遊びに来たり、この子を連れてお散歩に行ったりすることが多くなった。

幼児の成長を間近で見ていると、幼児の心の発達についてひどく興味をそそられる。自分の子供達を育てていたときは、このようにちよつと距離を置いて子供を観察する余裕など無く、ただ叱つたり、あやしたり、世話をしたりで、日々が過ぎていた。

孫の場合は違う。祖父母は始終直接に接しているわけではないから、離れたところから眺めて、余裕を持って客観的判断が出来るのだ。勿論、アヤのババやママは子供の世話で精一杯なのだろうが。

距離をおいてみると、幼児の心の動きが感じ取れて面白い。特に、幼児が他人の気持ちを思いやることが出来るようになるのはいつ頃からだろうか、人がその心の動きと違った行動をとることがあるというのを理解できるようなのはいつ頃からだろうか、などといういろいろな疑問が湧いてくる。

ある日のこと、アヤと二人で散歩していて、私がちよつと疲れたので

「ひと休み。」

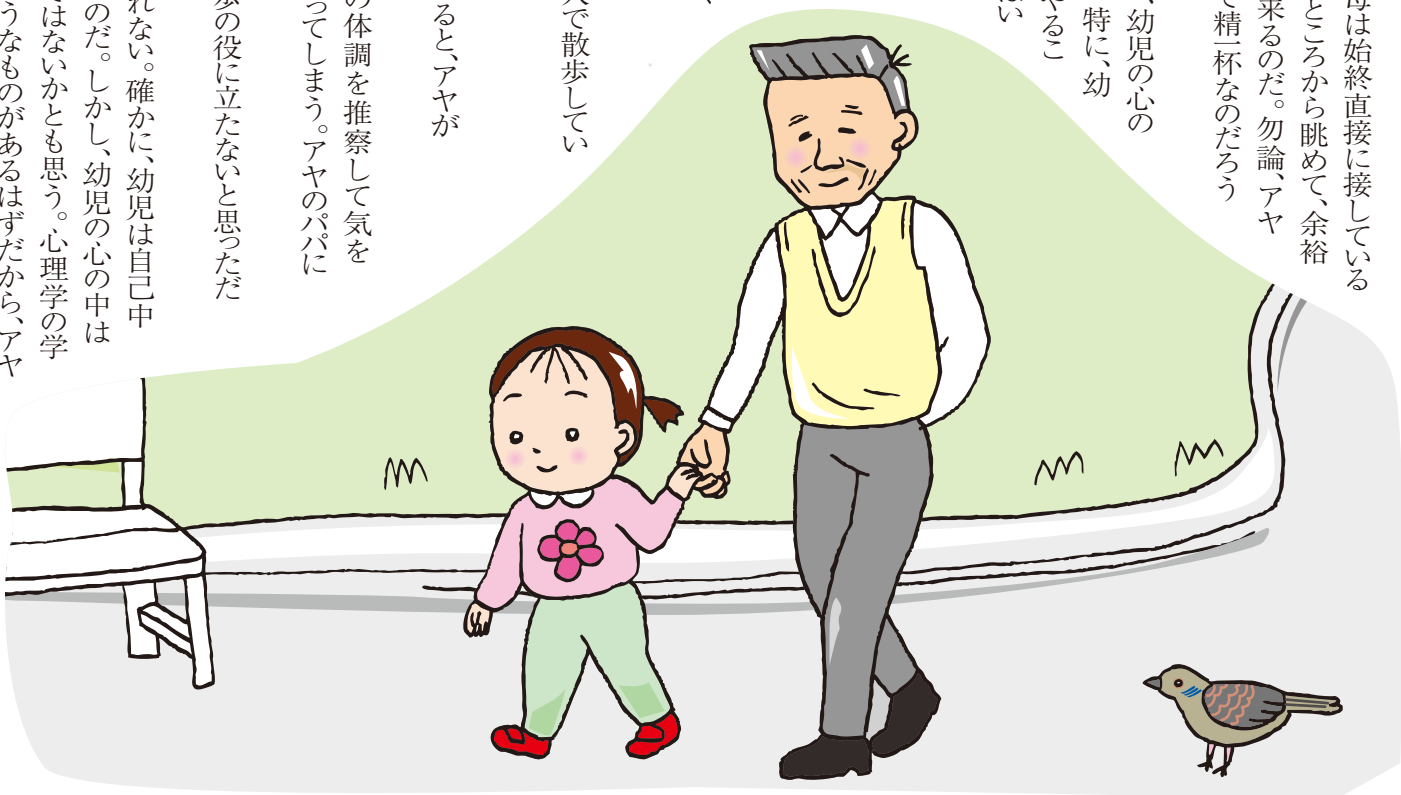
と言ってベンチに腰かけていると、アヤが

「ジイジ、帰ろうか。」

と言う。この子はジイジの体調を推察して気を使っているのだろうかと思ってしまう。アヤのババに言わせると、

「なあに、ジイジがお散歩の役に立たないと思っただけさ。」

と笑っている。そうかも知れない。確かに、幼児は自己中心的だと普通は考えるものだ。しかし、幼児の心の中はそれほど単純ではないのではないかとも思う。心理学の学問分野に幼児心理学のようなものがあるはずだから、アヤの心の働きを観察しながら、そのような分野の本を読んでもみようと思うようになった。



ジイジの
気付き



幼児には素晴らしい心が潜んでいる。

ジイジへのお便り

プロフィール むたたいぞう 1937年、福岡県生まれ。九州大学理学部卒業、東京大学大学院物理学専攻修了、理学博士。京都大学助手、助教、広島大学教授、学長、福山大学学長などを歴任。主な著書に「語り継ぎたい湯川秀樹のことば」「丸善出版」「電磁力学」「岩波書店」「量子力学」(裳華屋)などがある。東広島市在住。

エッセイを読んだ感想などを、お寄せください。
weekly@pressnet.co.jp
「心のめばえ」係